

2022 年度文系チャレンジ講座（第4回）を実施しました

9月14日（水）に教育学部の大谷 由布子先生を講師に迎え、「The earlier, the better? 外国語学習はいつ始めるのがよい?」というテーマで、文系チャレンジ講座第4回を実施しました。別府翔青、大分雄城台、大分鶴崎、大分西、大分商業、臼杵、竹田、三重総合、中津南、大分舞鶴、大分豊府、大分南、芸術緑丘、大分東、玖珠美山、中津北、津久見、日出総合の18校236名が受講しました。



大谷 由布子（大分大学）

臨界期仮説 (Critical Period Hypothesis)

- Lenneberg (1967) : 失語症の事例から
 - 「ある時期を過ぎると、脳が側頭化」
- ↓
- それ以降の自然な言語習得は困難になる!?
 - 「ある時期」=「思春期」
- ⇒ The earlier, the better?

大谷先生は、英語教育・小学校外国語教育を専門としており、教育学部・研究室の紹介やテーマに沿った内容について、受講生に対して問いかけを交えながら、お話していただきました。

教育学部・研究室の紹介では、「自分の専門分野をどのように選択するか」について、先生自身の体験談を語りながら、受講生にアドバイスをしていただきました。また、これまでの経歴を紹介され、学習指導要領の改訂について説明されました。それから「臨界期仮説（ある時期を過ぎると、脳が側頭化し、以

降の言語習得は困難になる）」について説明され、外国語教育が世界的に早期化する動きについて話をされました。次に「BAF (Barcelona Age Factor) Project (学習開始時期の異なる複数のグループを作成し、様々なスキルテストを行う)」という研究について説明されました。その中で、ほとんどのスキルでは、遅い年齢で学習を開始した方が優位になるという結果が出ていたが、そのために必要なのは、適切なモデル

BAF (Barcelona Age Factor) Project

- 外国語学習環境にあるスペイン話者対象
- 英語の学習開始年齢を 8歳～, 11歳～, 14歳～, 18歳以上の4つに分ける
- 学校での英語学習開始から200時間, 416時間, 726時間終了時点での到達度を測定 (リスニング・スピーキング・発音・文法等さまざまな英語スキル)

BAF (Barcelona Age Factor) Project

- 結果：ほとんどのスキルにおいて、遅い年齢で学習を開始したグループが早く開始したグループの成績を上回っていた
- そのために必要なのは…

“intense exposure”
&
“adequate model”

に十分に触れること

としてその例を説明されました。最後に、「どのような英語を目指していけばよいか」について、受講生に向けて「どんな英語の使い手になるか」を考えてもらいたいというメッセージを伝えていただきました。

受講生からは「英語を学ぶのは早ければ早い方がいいと思っていたけれど、そうでもない分野もあって驚いた。新たなことを知

ることができて良かった。」「文部科学省の話など貴重な内容を聞くことができてとても楽しかった。」「英語はどちらかというと苦手な私でも、無理のない範囲の自己レベル+1の内容をするといいことが分かった。」「スライドが分かりやすく、解説や結果など具体的に説明されてよかった。」等の感想が寄せられました。

学習者の目指す英語モデルの例

「Native Speaker」が Non-native Speaker に話すような英語 (上智大学吉田研作特任教授)

- 発音が正確かつ特定のなまりがない
- 明瞭で分かりやすい、構造がシンプル
- 相手に応じて調整できる

↓
どんな場面で英語を使用するのか?
どんな英語の使い手になりたいか?